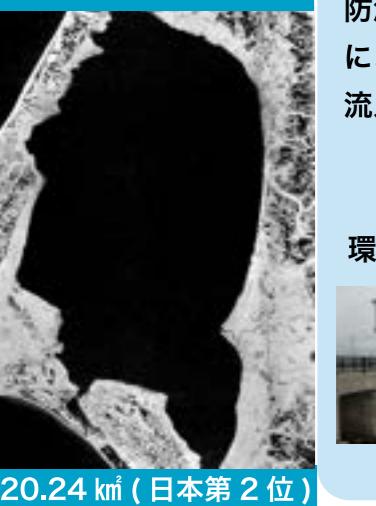


八郎潟・八郎湖の歴史

1957(昭和32)～1977(昭和52)年、日本で第2位の面積を持つ八郎潟は、戦後の食糧難という時代背景による国家の大事業として干拓が行われ、その約4/5が陸地化されました。

八郎潟（干拓前）



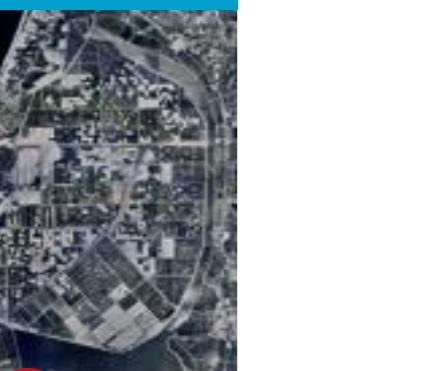
220.24 km² (日本第2位)

防潮水門の建設により、海水の流入が無くなり汽水湖から淡水湖に環境が変化した



防潮水門

八郎湖（干拓後）



47.3 km² (日本第18位)

※データの出典 美の国あきたネット「八郎湖の概要」<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/26334>

八郎潟・八郎湖が抱えている問題

かつての八郎潟では、水草を“モグ”と呼び、乾燥させて布団や畑の肥料などに活用していました。しかし、干拓後の環境の変化に伴ってモグは徐々に姿を消していきました。

アオコの顕微鏡画像
画像提供：秋田県立大学 岡野邦宏氏



大潟村をはじめとする干拓地で大規模な農業が行われるようになった反面、大幅に増加した農業排水が約1/5の広さとなった八郎湖へ流れ込むようになりました。その結果、八郎湖の水は富栄養化し、夏場に植物プランクトンの藍藻類が異常増殖するアオコの発生という問題に悩まされています。



アオコで覆われた湖面

みんなで楽しむ八郎潟再生！

八郎潟モグリウムプロジェクト

事業紹介パンフレット



特定非営利活動法人
はちろうプロジェクト
HACHIRO PROJECT

八郎潟モグリウムの名称は、はちろうプロジェクトとはちプロ学生部で相談して命名した造語です。また本ロゴマークは“地域プロジェクト演習”的一環で、秋田公立美術大学の学生が制作しました。

ご協力のお願い

1 モグリウムを設置してみませんか



当法人では、今後も八郎湖周辺各地にモグリウムを設置し、そこに水草と生きものとのネットワークを広げていきたいと考えています。関心がある、設置してみたいという、地域・学校・団体・個人などの方はぜひ一度お問い合わせ下さい。

2 一緒にモグリウムを広げる仲間になってください

はちろうプロジェクトの会員（年会費2千円～）となり、一緒に活動に取り組んでみませんか？会員なっていただいた方にはモグリウムの設置、水草や生きもの調査・研究などの最新情報を届けます。

3 協力してくれそうな人・団体・企業などの紹介

モグリウムとそのネットワークを広げるため、協力してくれそうな人・団体・企業などの情報も大歓迎です。八郎湖をなんとかしたい、という思いのある方をぜひ紹介ください。



X フォローお願いします！



パンフレット制作協力／秋田公立美術大学 ロゴマーク／工藤美羽・三浦伸人・進藤珠里
イラストレーション／三浦伸人・金子凜子 編集 DTP／安藤日菜・吉田留美夏・菅原香織

お問合せ先 特定非営利活動法人はちろうプロジェクト

TEL/FAX 018-874-8686
E-Mail info@hachiro865.net
HP <https://hachiro865.net/>
〒018-1618

秋田県南秋田郡八郎潟町字川口 531-1 (旧八郎潟展示館うたせ館)



「八郎潟モグリウム」とは…

八郎潟干拓前の地層から掘り出したモグ(水草)のタネ(埋土種子)を復活させ、育てている水槽です。モグが創り出す豊かな環境を観察して楽しみつつ、将来的には、このモグを八郎潟に故郷帰りさせて環境再生に繋げようと考えています。

活動成果

八郎潟周辺および八郎湖に関心を持った小・中学校、高校、大学、公園、企業などに設置しています。そこに八郎潟土着の遺伝子を持つエビモ、セキショウモ、クロモなどを植え付けました。水草の生育とともに、トンボのヤゴやゲンゴロウなどの水生生物がやってきました。顕微鏡観察を行うと、ミジンコが多数見つかりました。



水草再生に向けた協働の取り組み

秋田県立大学と千葉県立中央博物館は共同研究を通じ、八郎潟土着の水草(モグ)復活に成功しています。はちろうプロジェクトは、八郎湖の水環境改善のためには豊かな生態系の復元が不可欠と考え、このモグを活かし八郎湖に再生させる取り組みを始めました。千葉県立中央博物館・林紀男氏の研究成果※を適用して各地にモグリウムを設置。土着水草を栽培することでミジンコやトンボなどの豊かな生態系を復元し、回廊効果による水生生物の「にぎわい」を生む効果を目指しています。

※林氏は、水槽を用いて水生生物を誘致し生息域を広げる水生生物の回廊化を図り、トンボ等の豊かな環境を広域に創る研究で成果をあげています。

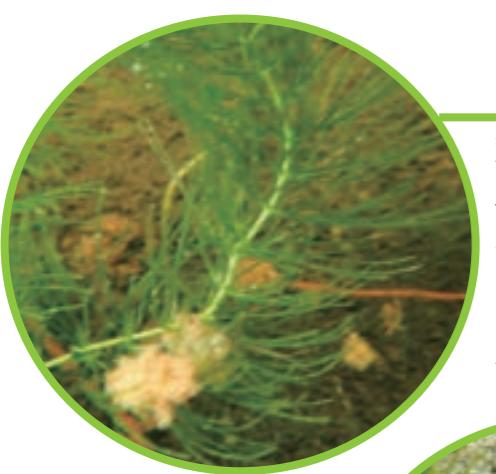
「はちプロ学生部」の活動

秋田県立大学や秋田公立美術大学の学生有志と、八郎湖再生のため実践的な活動に取り組む「はちプロ学生部」を立ち上げました。モグリウム以外にも、ホタル観賞会、外来種駆除、水生生物調査、環境教育の資格取得などの活動も行っています。学生の皆さんと協力し、水槽の管理、調査を行いつつ地域との交流を深め、次世代の育成にも繋げていきたいと考えています。



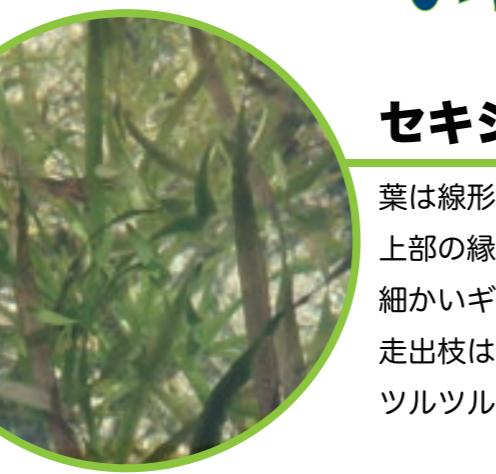
八郎潟モグリウムの水草

八郎潟干拓前の土着の沈水植物（モグ）を復活させよう！



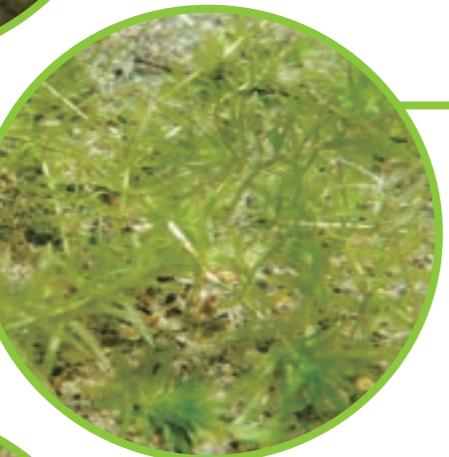
マツモ

葉の先が松の葉に似ている。
根がなく、水中を浮遊する
沈水性浮遊植物。
「キンギョモ」と呼ばれる
水草の一つ。



セキショウモ

葉は線形で長さ 10~80cm。
上部の縁葉の先端部に
細かいギザギザがある。
走出枝は突起がなく
ツルツルしている。



クロモ

葉はギザギザで
反り返ることが多く、
茎の周りに3~6枚
輪になってつく。
冬は枯れる。



コウガイモ

セキショウモに似ているが、
葉の先端部のギザギザがより目立つ。
走出枝に微細な突起があり、
手で触るとザラザラしている。



エビモ

葉はギザギザで
ちぢれて波打つ。
夏に葉の先に
植芽（しょくが）ができる。
秋に発芽する。
葉脈が赤い。



ニホンアマガエル



アオモンイトトンボ

水草たくさん、ミジンコたくさん

いろんなトンボが飛び回る 八郎湖をつくろう！



様々な生きものが
集まってくる！



ミジンコ

生態系を支え
水の浄化に欠かせない存在

ミジンコはアオコなど植物プランクトンを食べて水を透明にしてくれます。八郎湖に沈水植物（モグ）が復活すれば、ミジンコが隠れ家として利用し増えます。さらにミジンコを餌とする水生生物も豊かになり、八郎湖の生態系の調和再生につながることが期待できます。

モグリウム設置場所

2023/10/18 現在
13ヶ所に設置

N
4
十

